

令和4年度

# 教育行政方針

根室市教育委員会

I	はじめに	.....	1
II	教育行政に臨む基本姿勢	.....	2
III	主要施策の展開		
	1. 持続可能な社会の創り手を育てる学校教育の充実	.....	3
	2. 社会構造の変化の中で持続的で魅力ある 学校教育を実現する教育環境の充実	.....	8
	3. 社会教育・生涯学習活動の充実と 文化・スポーツの振興	.....	9
IV	むすびに	.....	14

## I はじめに

令和4年の根室市議会2月定例会議会の開会に当たり、教育行政に臨む基本的な姿勢と主な施策について申し上げます。

社会の在り方が劇的に変わる Society5.0 時代、新型コロナウイルス感染症拡大など不透明な「予測困難な時代」が到来する中で、私たちは様々な知恵を出し合いながら「新しい生活様式」を生み出して来ました。こうした時代に求められるのは、「ジグソーパズル型の能力」に加え「レゴブロック型の能力」であります。ジグソーパズルは、一つのピースに正解の場所はたった一つであり、その正解を探すものですが、全体の図柄はあらかじめ決められており、自分で世界観をつくりだすことはできません。

一方、レゴブロックは、一つ一つの部品はシンプルですが、組み合わせることで宇宙船にも家にも動物にも人の姿にもなり、町全体をつくりだすことも可能であり、言わば世界観自体をつくりだすものです。

また、根室市においては、人口減少・少子高齢化や産業構造の変化等の困難な課題が数多くある中で、困難に屈することなく、変化を前向きに受け止め柔軟に対応し、明るい未来を切り開いていくことが求められています。

## Ⅱ 教育行政に臨む基本姿勢

こうした認識の下、当市における教育行政の執行に当たりましては、第9期根室市総合計画の「個性を伸ばし豊かな心と感性を育むまち」を目指し、一つ目として、子どもたちが「社会を生きる力」を育む教育活動の充実、二つ目として、市民みんなが学び、高め合える生涯学習の振興の2点を基本方針とし、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた教育を推進しつつ、持続可能な社会の創り手を育てる学校教育の充実、学校・家庭・地域が連携して子どもを育てる教育環境づくりの充実、そして、市民一人ひとりの生涯にわたる学習活動の充実や、歴史・文化への理解とスポーツに親しむための効果的な施策を展開し、子どもたちが、ふるさとへの誇りと愛着をもちながら、世界に視野を広げ、社会を支えていくたくましい人材へと育っていくことができるよう、取り組んで参ります。

### Ⅲ 主要施策の展開

次に、こうした基本姿勢のもと、主な施策について申し上げます。

#### 1. 持続可能な社会の創り手を育てる学校教育の充実

第1点目は、「持続可能な社会の創り手を育てる学校教育の充実」であります。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、学びの在り方を含めた社会の在り方が大きく変わる中、新たな日常を創造するなど社会変革の推進力となる人材や、地球規模の課題を自分事としてとらえ、何ができるかを主体的に考える力をもつ人材の必要性が増大してきています。このため、学校の教育課程において、一人ひとりの児童生徒が、自分の良さや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、協働しながら、様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り開き、持続可能な社会の創り手へとすることができるよう、知識及び技能や思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等の資質・能力を育成することが求められております。

- そのため、学力向上に向け、校長・教頭・教諭の代表と教育委員会で組織する「学力向上プロジェクト推進会議」を継

続開催し、学力先進地視察等による授業改善の提言を全校で実践するとともに、北海道教育委員会の委託事業などを積極的に取り入れた授業改善により、児童生徒に対する指導方法をさらに工夫・充実させ、市全体の学力向上につなげて参ります。

- また、国や北海道からの教員加配に加え、市街地地区中学校への市独自加配や学力向上等補助教員の確保に努め、個に応じたきめ細かな学習指導を進めて参ります。
- 次に、新入学児童の小学校生活の円滑なスタートを図るため「スタートカリキュラム」を全小学校で実施するとともに、「子育てファイル”りんくす・ねむろ”」を活用した効果的な引継ぎなど、幼稚園・保育所と小学校との連携を進めて参ります。
- また、昨年度新たに市内教職員による研修組織として発足した「根室市学校連携教育研究会」を継続し、幼保小中高の連携を強化することにより、市全体の教育課題解決に向けた取組の充実を図って参ります。
- さらに、市内唯一の高校である根室高校には「北海道根室高等学校教育振興会」を通じ、高校生へのパソコン貸与や資格取得の支援、教員の研修事業の連携等に加え、高校で新年

度から実施される新学習指導要領の「総合的な探究の時間」で展開される地域巡検や外部講師活用等の教育活動への支援を拡充して参ります。

- 次に、特別な支援を必要とする児童生徒の学習活動への支援については、引き続き特別支援教育支援員や介助業務員を配置するとともに、放課後教室等指導員による学習サポートを継続し、早期支援の充実を図ります。
- また、花咲港小学校校舎への道立特別支援学校の分校・分教室誘致に向け、北海道教育委員会と協議を進めるとともに、インクルーシブ教育を主とする包括的な教育スタイルの学校について調査・研究を進めて参ります。
- 次に、ICT機器の学校教育での活用など教育の情報化については、GIGAスクール構想により全児童生徒及び教員に配備したタブレット端末を最大限に活用した授業改善、対面指導とICTによるオンライン教育を組み合わせたハイブリット型の新たな教育実践を進化させるため、教員の活用能力の向上や子どもたちのネットモラル教育、ICT機器の更新等について教員研修の充実を図り、「令和の日本型学校教育」が目指す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けて取り組んで参ります。

- また、タブレット端末を活用し、不登校等の児童生徒に対する学びの保障に努めるなど、きめ細かな支援や対応を図って参ります。
- 次に、道徳科を<sup>かなめ</sup>要として、子どもたちが自らの生き方を主体的に考え、行動し、自立した社会人として成長していくための基礎となる道徳性の涵養に努めて参ります。
- また、子どもたちがいじめについて考え、行動する力を育むため、根室高校とも連携しながら、小中学校等の児童生徒代表が参加する「子ども会議」を開催し、いじめは誰にも起こり得る問題であるとの認識を高め、望ましい人間関係の形成に努めて参ります。
- さらに、長引くコロナ禍で制限された生活に起因する子どもたちの対人関係のトラブルやいじめ問題などに迅速に対応するため、市独自のカウンセリング体制の整備を図って参ります。
- 次に、学校の教育活動全体を通じてジェンダー平等への理解を促し、一人ひとりの児童生徒が、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し合える教育を進めて参ります。
- また、「生活リズムチェックシート」を活用して、各家庭でゲーム機や携帯などの電源を切る時間を決める「スイッチオ



フ２２」等の活動を全市的に展開し、基本的な生活習慣の確立を図るとともに、子どもたちがトラブルの被害者や加害者にならないよう、ネット利用に関する家庭のルールづくりを促進して参ります。

○ 次に、コロナ禍で家庭で過ごす時間が長くなったことにより子どもたちの体力低下がみられることから、感染対策に配慮しながら、スポーツや遊びを通じた体力向上機会の創出に取り組んで参ります。

○ 次に、ふるさと学習については、北方領土返還要求運動原点の地として、北方領土に対する教育をより一層推進するとともに、自然、歴史、産業など、地域のもつ魅力や特性について学ぶ機会の拡充に努め、郷土ねむろを愛する教育を実践して参ります。

○ 防災教育については、市長部局や地域と連携し、発生の確率が高いとされる千島海溝沿いの巨大地震と大津波をはじめ高潮や暴風雪などから、子どもたちが自らを守るために必要となる知識や能力等が身に付くよう、一層の充実に努めて参ります。

## 2. 社会構造の変化の中で持続的で魅力ある

### 学校教育を実現する教育環境の充実

第2点目は「社会構造の変化の中で持続的で魅力ある学校教育を実現する教育環境の充実」であります。

当市の将来を担う子どもたちが、安心して充実した学校生活を送ることができるよう、引き続き、児童生徒数の推移を見据えた学校の適正配置や多様化する教育ニーズ等に対応した教育環境の整備と教育機能の維持向上を図っていくことが重要です。

- そのため、落石地区の小中学校併置校化に向けた小学校校舎・体育館の改修及び中学校校舎の移転・改築のための実施設計を行いつつ、未耐震の課題を解消して参ります。
- また、子どもたちの学校生活にかかわりの深い施設の重点的な改修に加え、学校体育館のバスケットゴールや照明器具など吊物の落下防止対策を進め、安心・安全に学ぶことのできる学校環境の整備に取り組んで参ります。
- さらに、学校と地域が一体となって子どもたちの成長を支える「コミュニティ・スクール」を全ての小中学校等に導入するため、本制度に造詣の深いコミュニティ・スクールアドバイザーを委嘱し、円滑な導入と運営の活性化を目指します。

- 次に、当市の将来的な学校給食のあり方について、学校、保護者、給食協会等で組織する「(仮称)根室市学校給食検討委員会」を設置し、調査・検討を進めて参ります。
- また、児童生徒の学校給食費の無償化を継続するとともに、食育の一環として地場産食材への理解を深める「ふるさと給食」を引き続き実施いたします。
- 全国的に教員の確保が困難となってきていることから、当市の「学校における働き方改革のための業務改善計画」に基づき、校長会と連携して全ての学校において、校務支援システムにより教職員在校等時間を客観的に把握・管理するとともに、保護者や地域の方々の理解を得ながら教職員の在校等時間の縮減を図るなど、教員の働き方改革を着実に進めて参ります。

### **3. 社会教育・生涯学習活動の充実と**

#### **文化・スポーツの振興**

最後に第3点目は、「社会教育・生涯学習活動の充実と文化・スポーツの振興」についてであります。

子どもたちの豊かな感性や情操を育成するためには、あらゆる年代の人々との交流や様々な体験を得られる環境づくりが

求められることから、地域コミュニティが中心となり、地域で子どもを育てる社会教育の充実を図ることが大切です。

また、全ての市民が心豊かで健康な生活を送るためには、文化・スポーツや地域の歴史に親しみながら、生涯を通じて積極的に学び、その成果を生かせる環境づくりが大切であると考えており、市民一人ひとりの可能性を引き出すための機会づくりとなるような事業展開を工夫するなど、生涯学習活動の充実に努める必要があります。

- そのため、教育委員会事務局職員で横断的に構成するワーキンググループにより動画等のコンテンツを作成し、根室の素材を活用した学習教材づくりに引き続き取り組んで参ります。
- 人口減少や価値観の多様化など社会環境が変化する中で、住民同士が「つどう」「まなぶ」「むすぶ」機会づくりとなる学習活動をより活性化させ、住民のニーズを捉えた事業展開を図って参ります。
- コロナ禍の現状を踏まえ、オンラインとオフラインの併用による講座開設など市民の学びを確保しながら、自主的・主体的な参画を後押しして参ります。
- 本年、創立30周年を迎える「根室市総合文化会館事業協

会」と連携し、節目となる舞台芸術鑑賞機会の充実を図るとともに、「根室市文化協会」等との協働による市民の芸術文化活動の発展・支援に努めて参ります。

- 次に、総合文化会館の施設整備として、大ホール客席照明のLED化や小ホールの舞台吊物機構改修などを計画的に進めるほか、当市出身の偉大な作曲家飯田三郎氏の功績をさらに広く公開展示するため、現在図書館に開設しております「飯田三郎資料展示室」を総合文化会館喫茶コーナーに移転します。
- また、本年は飯田三郎氏の生誕百十年にあたることから、市内外の音楽関係者の協力を得ながら「ふるさとの作曲家飯田三郎生誕百十年記念音楽会」を開催します。
- 次に、子どもたちの社会教育関係事業への主体的な参加を奨励する「ねむろわんぱくチャレンジ」について、様々な経験を通して学び人間性豊かに成長していけるよう内容を一新し、さらなる参加促進を図ります。
- 青少年の健全な育成のため、「青少年相談室」と「ふれあいくらぶ弥生」を移転し、新たなカウンセリングスペースを確保して相談環境の充実を図るとともに、地域住民や学校、関係団体などと協働しながら、青少年活動リーダーの養成に

取り組んで参ります。

- 次に、放課後教室等につきましては、感染拡大防止対策を徹底しながら、子どもたちが安心・安全に多様な体験・活動を行うことができる居場所づくりを目指して参ります。
- また、文化・スポーツにおける児童生徒の活躍を後押しする「みらいのアスリート・アーティスト応援事業」を継続し、各種大会への参加助成に加え、トップアスリート・アーティストとの交流など、日本や世界での活躍を目指す子どもたちの可能性を引き出す事業を展開して参ります。
- 次に、史跡の活用については、アイヌ文化の金属製品について保存処理を行い、資料の継承や活用を図るほか、市内遺跡の発掘調査成果に基づく、アイヌ民族の家屋復元模型の製作やチャシ跡の3次元測量を通して遺跡の可視化に取り組んで参ります。
- また、日本遺産につきましては、管内1市3町で構成する「鮭の聖地メナシネットワーク」において、構成文化財のサイン整備や動画制作に取り組むほか、企業版ふるさと納税による寄附を活用し、北構保男氏寄贈のオホーツク文化資料のレプリカを製作するなど日本遺産のプロモーションに資する事業に取り組んで参ります。

- 根室半島の湿原群は、環境省が指定する「日本の重要湿地500」に選定され、中でも歯舞湿原は、日本で唯一の低標高で形成されたブランケット型泥炭地という稀少かつ特異な自然環境・景観であり、生物多様性保全においても重要な場所でもありますことから、専門家のアドバイスをいただきながら保存と活用に向けた計画策定や、市の天然記念物の指定に向けた準備を進めて参ります。
- 次に、図書館については、安心して利用できる環境や蔵書の整備・充実を図りながら市民に読書の楽しみを広げるとともに、図書館ボランティアをはじめとした各協力団体とも連携し、新たに絵本のヒーローショーを取り入れた「ねむろっこ図書館フェスティバル」を開催するとともに「子どもブックライフ応援事業」を継続展開するなど、乳幼児から学童期まで途切れなく、子どもたちが多くの本と出会う環境を充実させ、学習はもとより様々な交流が広がるよう支援して参ります。
- 次に、スポーツの振興につきましては、「市民一人1スポーツ」を目指し、市営球場や総合運動公園スケートリンクをはじめとする社会体育施設の環境整備を進めるとともに、障がい者スポーツの普及や指導者育成に努めて参ります。

- 「最東端ねむろシーサイドマラソン」につきましては、市民の健康増進や体力の向上、全国から当市を訪れるランナーとの交流や地域振興、さらには北方領土問題啓発にも資する大会として開催できるよう努めて参ります。
- さらに、総合体育館の建設については、整備基本方針に基づき、今後の基本構想策定に向けた調査・研究を進めて参ります。

#### IV むすびに

以上、本年度の教育行政の基本的な考え方と主な施策について申し上げます。

現在、図書館内にある「飯田三郎資料展示室」に飯田三郎氏が1997年に根室市に寄せた思いが掲示されており、そこに飯田氏の根室市に対する深い愛情が綴られています。

「根室は文化都市としての素質機能を充分持っている都市である。それは潜在的であり、開花するに至っていない。現在がその過渡期である。文化性が分散されていると言える。正確に言えば統一性が必要とされることである。それは意識の問題と積極性と善意。大げさに言えば、みずからも含めこの土地・街



に対しての認識、哲学と言ってもいい」

飯田氏は、根室市が持つ潜在的な可能性とともに、それを開花させるためには市民の思いを積極的に受け止め、重ね合い、文化として昇華させていくことの大切さを指摘しています。この飯田氏の思いが寄せられてから 20 数年、この間根室市は国際情勢、社会環境の変化などの荒波を越えながら独自の文化を発展させてきました。そして今、新型コロナウイルスの大きな波の真ただ中にいます。

根室市教育委員会としましては、このような時代の荒波の中にあっても、市民一人ひとりの思いを受け止め、積極的に意見を交わし合うことによって、また新しい根室の教育・文化が花開いていくことができるよう、教育関係者と一丸となって当市の教育の充実・発展に取り組んで参りますので、市民の皆様並びに議員の皆様には、ご理解とご協力をお願い申し上げます。